

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

2017年も半分を過ぎてきました。年前半を振り返るとともに、年後半の展望を考えてみたいと思います。

【ドル/円 週足】



2017年は前年のトランプ・ラリーの流れを受け、年初に118円60銭の高値をつけました。

2016年12月にFRBが利上げを実施、堅調な足取りを続ける米国経済を前提に本年も継続的に利上げが実施されると予想されること、トランプ新大統領の経済政策（大規模なインフラ投資、大幅減税）への期待を背景にドルが上昇するシナリオが市場の大勢を占めていました。

しかし、実際には年初の118円台が今年の高値となり、ドルは軟化し4月には108円13銭の安値をつけています。

ドル安の背景には、米新政権の経済政策実施が遅延していること、シリア攻撃に端を発した地政学リスクの高まりを受けた北朝鮮リスクの顕在化、さらにはトランプ政権のロシアゲート疑惑などが挙げられます。

その後は114円37銭まで値を戻すも、108円81銭まで下落、114円49銭まで再浮上となり、明確な方向性を描けない動きが続いています。

このような状況の中、年後半の展望を考える場合、最も注目すべきは米国の実体経済といえます。

FRBは年内後一回以上の利上げを考えており、さらにバランスシート縮小の開始も確実視しています。FRBの見立てを前提に考えると、年後半のドル/円のメインシナリオは、ドルの緩やかな上

ドル/円相場のトレード戦略

昇となるでしょう。ただし、実際の経済指標はやや斑模様となってきており、市場では米景気拡大に懐疑的な見方もあり、ドルの上値も限られたものとなる可能性が高く、年初の高値 118 円台が意識されるでしょう。

リスクシナリオとしては、ロシアゲート疑惑や対日貿易政策などトランプ政権発のサプライズの円高が挙げられます。今年安値の 108 円を割り込むような場合には、何か新しい材料が出ている可能性が高く、大幅な円高には警戒する必要があるでしょう。

また、可能性は少ないもののトランプ政権の経済政策が年内に議会を通過し実施めどが立った場合には、ドル急騰というリスクシナリオも念頭に入れておきたいところです。

■ 短期展望

先週は、米国雇用統計後のドル買いの流れが続き、一時 114 円 49 銭と約 4 か月ぶりの高値をつけました。

しかし、トランプ大統領の長男がロシア問題に関するメールを公開したことで疑惑が深まったことや、イエレン FRB 議長の議会証言が市場の思惑よりも慎重なものとなったことからドルは反落し、112 円台前半まで下押ししました。

今週もドルの上値の重い展開が予想されます。

先週のドル下落は積み上がったドルロングの調整と思われ、そのドルロングはまだ残っているように見えます。

ただし、日米の金融政策の方向性の違いは明確であり、円高にも限りがあると思われることから、今週は 111 円～114 円のレンジを想定しながら、ドルの下値を確認する動きが先行するものと思われます。